

再エネの最大限導入・利活用推進 に向けた取組みのご紹介

令和6年9月11日
北海道せたな町



ZERO CARBON
HOKKAIDO
SETANA

1. 北海道せたな町の紹介

- (1) せたな町の概況
- (2) 再生可能エネルギーに関する取り組み

2022
docomo
Original
Calendar

2. 再エネの最大限導入・利活用推進に向けた取り組み

- (1) ゾーニング・エネルギービジョン策定
- (2) ゾーニングマップ策定に係る工夫点
 - ① 地域関係者の理解促進のための協議会設立・開催
 - ② ゾーニングマップ策定にかかる地元との調整
 - ③ 地域エネルギービジョンとの連携及び促進区域との整合

3. 再エネの最大限導入・利活用推進に向けた課題



ドローンとAIでつなぐ酪農の未来
(せたな町／北海道)
◀詳しくは特設サイトへ

1. 北海道せたな町の紹介

(1) せたな町の概況

人口・面積

6,805人・638km²
(令和6年7月末時点)

地勢・自然環境

- せたな町は北海道の南西部、日本海に面した檜山（ひやま）振興局管内の北部に位置
- 平成17年9月に大成町、瀬棚町、北檜山町の3町が合併して誕生
- 北部には道南最高峰の“狩場山”、南部には“遊楽部岳”や“白水岳”など山々が連なる
- 町内を一級水系の後志利別川（しりべしとしべつがわ）が流れ、海岸には親子熊岩などの奇岩、怪岩が続く景勝地に囲まれる

産業・観光

- 農業は稲作と酪農畜産が中心
- 畑作では男爵芋の主産地で種子と食用馬鈴薯を生産
- 水産業の主要魚種はサケ・イカ・ウ二等
- 日本一や日本初として紹介できる“町の自慢”が多く存在
 - 荻野吟子 : 日本人女医第1号の荻野吟子が瀬棚で活躍
 - 後志利別川 : 清流日本一に17回も選ばれている
 - 海水浴場 : 日本一レベルの水質を誇る海水浴場
 - 風海鳥 : 日本初の洋上風車

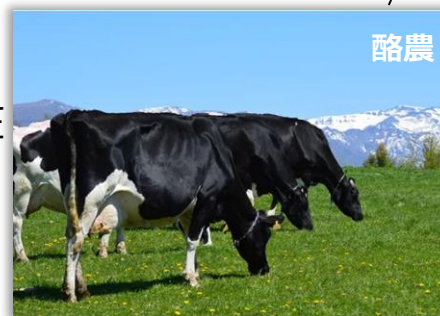
せたな町章
(せたな町の位置
を表現)



三本杉海水浴場



後志利別川



酪農



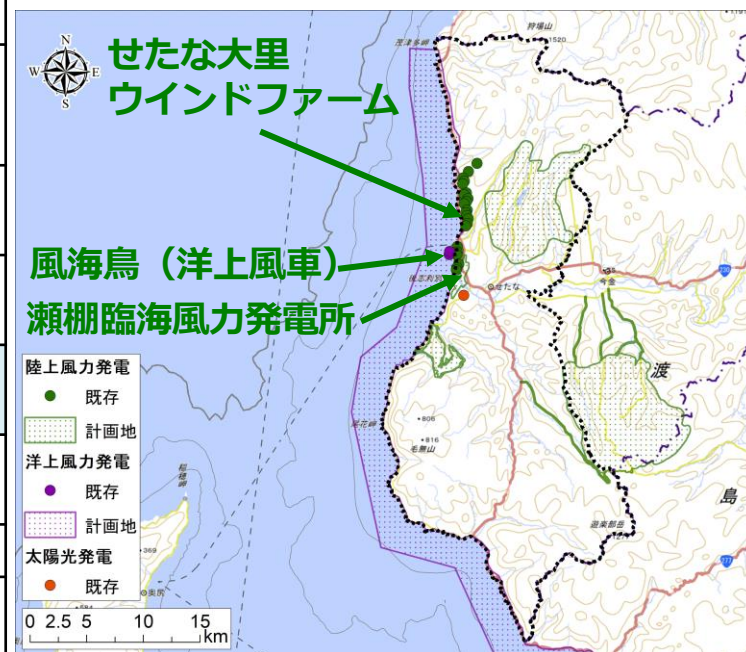
親子熊岩

1. 北海道せたな町のご紹介

(2) 再生可能エネルギーに関する取り組み

- 風況が良く、町内には既存の風力発電施設が3箇所、計画地が7事業（陸上4、洋上3）。3月から9月にかけて日照時間も多く、太陽光発電施設（メガソーラー）も立地

時期	取り組み	概要
1999年3月	北檜山町新エネルギービジョンの策定	町内の風力・太陽光等再エネに関する賦存量調査を実施
2004年4月	風海鳥の稼働	日本初の洋上風車（600kW×2基）が稼働
2005年12月	瀬棚臨海風力発電所の稼働	民間事業者によるウィンドファーム（2,000kW×6基）が稼働
2009年4月	せたな町地球温暖化対策推進実行計画書（事務事業編）の策定	2013年度までに温室効果ガス排出量の5%減（対2007年度比）を目標として設定、2012年度に12.15%減となり達成
2018年3月	第2次せたな町総合計画 期間:2018年度～2027年度	風力や太陽光を生かした再エネの導入を促進することを目標に設定
2018年3月	せたな町小型風力発電施設設置に係るガイドライン	住民の安心安全、自然環境や景観保全の観点から事業者が自主的に遵守すべき事項を設定
2019年10月	「第20回全国風サミットinせたな」開催	再エネの普及と啓発を目的とした全国風サミットを誘致・開催
2020年1月	せたな大里ウィンドファームの稼働	民間事業者によるウィンドファーム（3,200kW×16基）が稼働
2023年5月	檜山沖が有望な区域に指定	2024年7月に第2回法定協議会が開催済
2023年11月	温対法に基づく地域脱炭素化促進事業の促進区域の設定・公表	町のエネビジョン・ゾーニング結果を活かした促進区域を設定し、町のゼロカーボン推進協議会内での事業認定部会を設立



環境省,環境アセスメントデータベース (EADAS) を参考 to 作成

2. 再エネの最大限導入・利活用推進に向けた取り組み

(1) ゾーニング・エネルギービジョン策定

- 町では令和4年3月に「ゼロカーボンシティ」を宣言し、脱炭素に向けた取り組みを推進
- 風力発電や太陽光発電の導入と脱炭素化に向けて、町のエネルギービジョンの策定を検討するにあたり、再エネの導入拡大が期待される一方で、自然・社会環境への影響も懸念されることから、実現性のある導入量とエリアを示せるゾーニングマップも合わせて検討することとした。
- 地域関係者や学識者による協議会（勉強会）を通じて、地域課題解決に向けて取りまとめた。
 - ✓ 無秩序な開発を抑制し地域の環境を保全
 - ✓ 再生可能エネルギーの適切な導入
 - ✓ 地域関係者との早期の調整



再生可能エネルギーに係るゾーニング※を実施

再生可能エネルギーの導入と利活用による

- ✓ 地域課題の解決
- ✓ 地域の脱炭素化
- ✓ 地域エネルギーのレジリエンス強化



せたな町地域エネルギービジョン※を策定

せたな町の再生可能エネルギー導入実績と
導入ポテンシャル

再生可能 エネルギー	導入実績 (MW)	導入ポテンシャル (MW)	比率
太陽光 (建物・土地)	1.9	1,773	0.1%
陸上風力	64	1,729	3.7%
合 計	66	3,516	1.9%

環境省、自治体再エネ情報カルテを加工（太陽光・風力以外は少数の为非表示）

2. 再エネの最大限導入・利活用推進に向けた取り組み

再生可能エネルギーの導入と利活用による

- ✓ 地域課題の解決
- ✓ 地域の脱炭素化
- ✓ 地域エネルギーのレジリエンス強化

せたな町地域エネルギービジョン

地域エネルギーの地産・地消でまちづくり ～みんなで取り組むエネルギーの地産・地消～

概要



経済

【町内外の地域活性化】

- ✓ 町内外を含めたエネルギーの地産・地消



環境

【日本一の脱炭素の取組を目指す】

- ✓ 生物多様性の保全等を考慮したゾーニングで適切に再エネ導入・省エネ推進
- ✓ 自家消費等によるエネルギー自給率 100%を目指す



社会

【安全・安心なまちづくり】

- ✓ 再エネ導入・省エネ推進による防災機能の強化



教育

【町民の脱炭素の取組を推進】

- ✓ 町内外の再エネ・省エネ設備を利用した環境教育・人材育成



技術

【脱炭素の取組を推進】

- ✓ 再エネ電源を利用した最新技術を活用し、町内の施設や活動における脱炭素の取組を推進

2. 再エネの最大限導入・利活用推進に向けた取り組み

再生可能エネルギーに係る ゾーニング結果のとりまとめ公表 ※ 町HPで公開

- ✓ 無秩序な開発を抑制し地域の環境を保全
- ✓ 再生可能エネルギーの適切な導入

ゾーニングマップ作成方法の検討

ゾーニングマップの作成

地域説明会の開催

パブリックコメントの実施

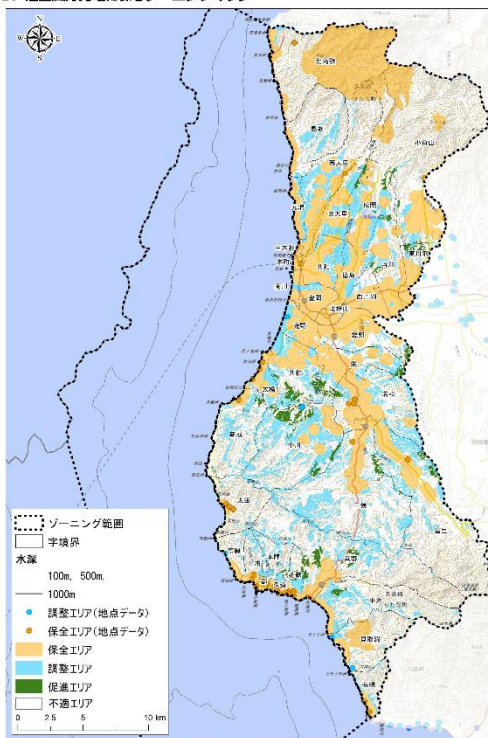
参考資料2 ゾーニングマップ
(陸上風力発電、洋上風力発電、太陽光発電)

参考資料2 ゾーニングマップ
(陸上風力発電、洋上風力発電、太陽光発電)

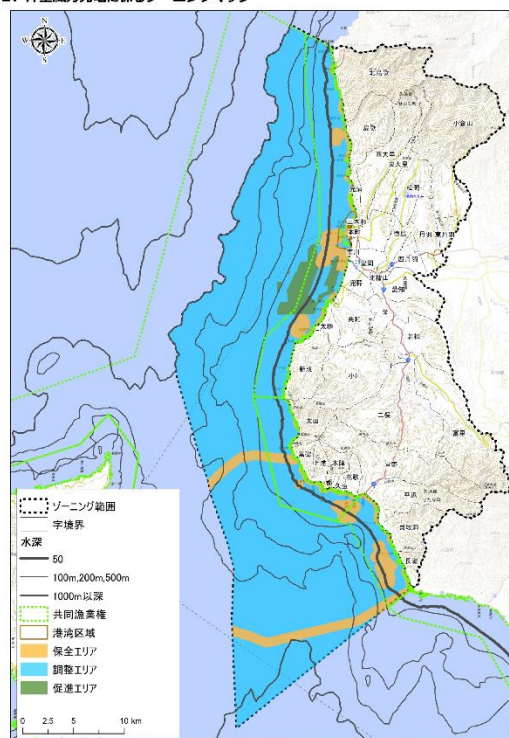
参考資料2 ゾーニングマップ
(陸上風力発電、洋上風力発電、太陽光発電)



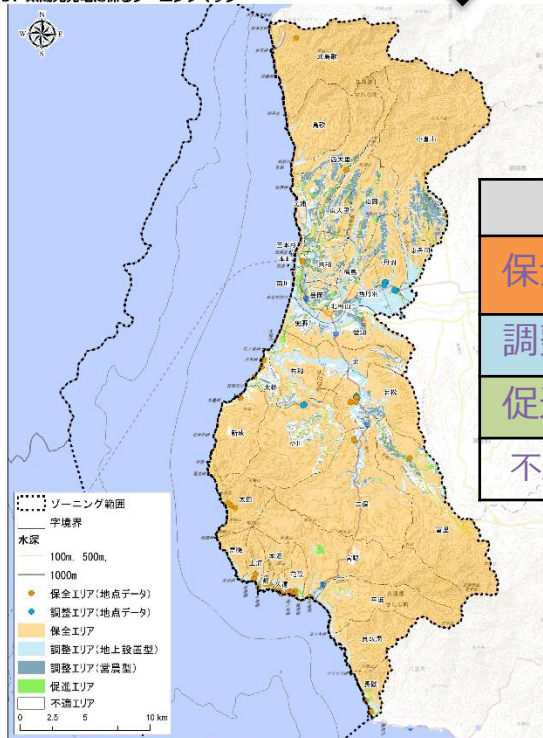
1. 陸上風力発電に係るゾーニングマップ



2. 洋上風力発電に係るゾーニングマップ



3. 太陽光発電に係るゾーニングマップ



区分	事業検討
保全エリア	不可
調整エリア	可能
促進エリア	
不適エリア	

2. 再エネの最大限導入・利活用推進に向けた取り組み

(2) ゾーニングマップ策定に係る工夫点

ゾーニングでの工夫点	取り組みによる成果
① 地域関係者の抽出・理解促進のための協議会設立・開催	・ 町民および地元団体（農林漁業・産業）の再エネ導入・環境配慮に対する考え方を把握できたことにより、<u>町民のための取り組みとして</u>、成果をとりまとめることができた。 ・ 道内外の有識者およびオブザーバー（国・道・発電事業者など各団体）との連携機会が生まれ、<u>町民や学生向け環境学習を始めとした更なる連携事業を開始するきっかけ</u>とできた。
② 地元との調整	・ 町民との共生による再エネ導入をより実現していくため、<u>環境留意事項のみでなく、将来的な電力の地産地消や災害時のレジリエンス強化、基金の創設などによる地域還元・メリットを含めた期待事項も把握・整理することができた。</u> ・ 地区ごとの住民説明会の実施により、地元住民の心配や留意すべき事項を一定程度把握できたため、今後、事業者等が具体事業を検討する際には、<u>窓口となる町として予め事業者等へ伝えることができるようになった。</u>
③ 地域エネルギービジョンとの連携及び促進区域との整合	・ 風と太陽の地域資源を活かしたまちづくり推進に向け、<u>具体的な目標や実現可能性について、関係者間で共通認識を持って、実現に向けた町内施策の推進や発信</u>を行うようになった。 ・ <u>促進区域にて開発検討する事業者に期待する地域貢献等も明確化</u>でき、事業認定に向けて、事業者と具体的検討を開始。

2. 再エネの最大限導入・利活用推進に向けた取り組み

(2) - ① 地域関係者の理解促進のための協議会設立・開催

- 協議会は多岐にわたる関係者で構成、特に町民公募においては再エネに理解や関心が高かった。
- 町内発電事業者も含めることで、環境保全だけでなく、促進に対する意見も収集
- 再エネと地域の共生に向けた環境学習の一環として、有識者による町民向けの勉強会も開催

構成委員：18名

有識者

道内外から2名ずつ計4名
専門の異なる方を招集

農林漁業関係者

農業委員会、農業協同組合、
森林組合、漁業協同組合

産業関係者

建設協会、商工会、観光協会

町民代表

町議会議員、町内会連絡協議会
町民公募（4名）

せたな町再生可能エネルギー 協議会・専門部会



オブザーバー：15名

国の関係機関

環境省、林野庁、
国交省（港湾、海上保安部）

道の関係機関

環境、エネルギー、
ゼロカーボン等関係部署

庁内関係部署

副町長、環境、農林漁業、
まちづくり等関係部署

電力会社

町内発電事業者含む

（令和3～4年度）再生可能エネルギー協議会

（令和5年度～）ゼロカーボン推進協議会として継続

2. 再エネの最大限導入・利活用推進に向けた取り組み

(2)-② ゾーニングマップ策定にかかる地元との調整

- ・ 町内には既に風車が設定されているため、周辺の地域住民や酪農従事者からも個別に意見を集約
- ・ 地域の固有情報や意見をゾーニングに反映するため、地区ごとに地域説明会を開催（計8回）
- ・ 地域で懸念されている点については、留意事項としてとりまとめ結果に反映



牧場関係者等への
ヒアリング



地域説明会

地域の意見（一部）

風力発電の懸念事項

- ・ 家畜等への影響
- ・ 夜間の光（航空障害灯）
- ・ 電磁場、超低周波音

太陽光発電の懸念事項

- ・ 設置後の除草（維持管理）

地域の固有情報

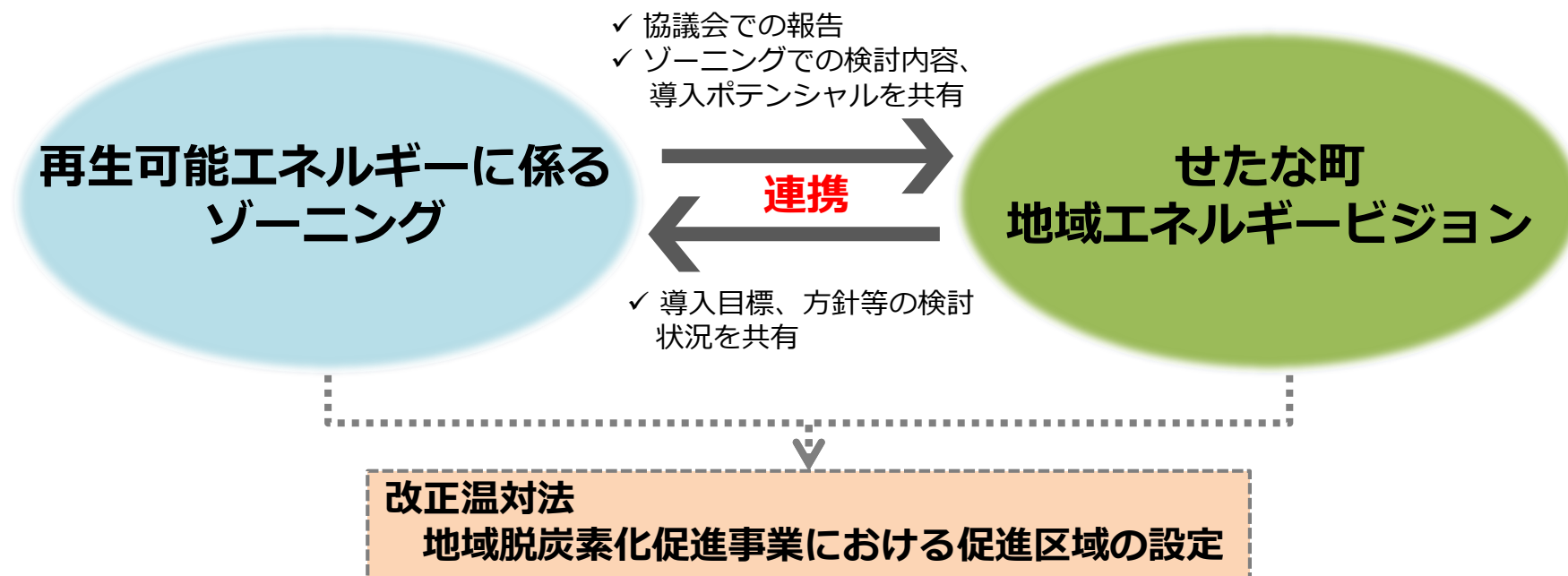
- ・ 希少猛禽類の生息情報
- ・ 居住地、土地所有者の情報

※ 環境影響評価（アセスメント）における
調査項目以外を整理

2. 再エネの最大限導入・利活用推進に向けた取り組み

(2) -③ 地域エネルギービジョンとの連携及び促進区域との整合

- ・ ゾーニングで区分した促進、調整エリアの導入ポテンシャルを最大限生かす形で地域エネルギービジョンの方針等を検討
- ・ 地域エネルギービジョンで検討する導入目標を見据えながらゾーニングマップを作成（促進、調整エリアの面積と導入ポテンシャルをみながら検討）
- ・ 加えて、**将来的な脱炭素化促進事業における促進区域設定を見据えた形でゾーニングを実施**（令和5年11月より、陸上風力・太陽光ゾーニングエリアを活かした促進区域を指定・公表開始）



※せたな町温暖化対策実行計画（区域施策編）を令和5年11月から公表開始

3. 再エネの最大限導入・利活用推進に向けた課題

課題	意見
①都道府県配慮基準	● 都道府県は環境配慮基準の設定において、市町村の取り組みや状況をヒアリングするなど、地域の実情を考慮した基準の設定や市町村における裁量権も必要
②事業者のインセンティブ	● 地域脱炭素化促進事業における事業性の確保が重要で、固定資産税の減免やアセス配慮書省略だけでなく方法書・準備書の簡略化などのインセンティブ強化が必要（再エネ導入の加速化も図れる） ● 促進区域での系統接続の円滑化や優先化の制度設計など
③自治体の負担軽減	● ゾーニングの実施や区域施策編の策定など地方自治体の負担は大きく、それに伴う人材の育成・確保など様々な課題が多く、補助金や交付金、交付税措置などの対応が必要 ● 都道府県におけるゾーニングの実施 ● 自治体には財政支援、人材支援、情報支援の3点が必要
④その他	● 事業者における地域脱炭素化促進事業計画認定申請においては、再エネ種ごとの申請が望ましい